

2025年度 海外メディアレポート

BEAJが会員社のご協力を得て国際コンテンツ業界の最新動向をお届けします。

Vol.1

ContentAsia Summit 2025 レポート(その1)

対話型・体感サミットへアジアの情報・人・チャンスが集結

～ContentAsia Summit 2025 in 台湾～

2025年9月3日(水)～4日(木)の2日間、台湾台北市で開催された「ContentAsia Summit 2025」へBEAJから海外メディアレポートの取材の機会を頂き、参加しました。

「ContentAsia Summit 2025」は、アジア各国の映像・番組制作、配信、国際共同制作、資金協力など、コンテンツ産業の情報共有を目的として開催される国際カンファレンスです。今回は「国際共同制作」と「マイクロドラマ」をテーマとしたディスカッションが柱で、アジア各国の新作番組第1話のプレミア上映、さらにアジアの優れた作品を表彰する「ContentAsia Awards」が合わせて開催されました。

TOPICS

アジアコンテンツ産業の情報・人・チャンスが台湾に集結

台湾、韓国、中国、タイ、カンボジア、マレーシア、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、イギリスなど40名を超える登壇者と、アジア各国から約200名の参加者が台北市内のホテル会場に集結。各国のトレンドや課題、成功事例の共有、また、出資者、共同制作者となる可能性を探るネットワーキングが行われました。

全て英語や中国語(台湾華語)で、テンポよく語られるディスカッション。業界用語が飛び交う“ネットワーキング・ブレックファスト”。アワードのドレスコードは“ブ

リリアント”(フォーマルの上!)。自国で成功したビジネスを第2、第3国で展開し、さらなる展開を探る各国クリエイター、CEOなどの業界関係者。国際見本市初心者の私にとっては難解な場面しかない2日間でしたが、想像力と笑顔で乗り切り、ローカル局の海外展開の可能性を探ってきました。

「ContentAsia Summit 2025」主催者である Content Asia 編集ディレクター ジャニン・スタインさんのインタビューをレポートします。



ContentAsia Summit 2025 会場



ディスカッション



ネットワーキング

TOPICS

業界情報誌e-ニュース「ContentAsia」を対話型で体感するサミット

Q. 「ContentAsia Summit 2025」の目的を教えてください。

2009年に始まった「ContentAsia Summit」は、業界情報誌・e-ニュースの定期的な発行でアジアの映像業界から信頼を得ている情報プラットフォーム「ContentAsia」を、年に一度「参加型サミット」として開催、昨年と今年は台湾を開催地としました。サミット参加者同士がリアルで、インタラクティブな形で「ContentAsia」を体感できる場を提供する



Pencil Media Pte Ltd
Editorial Director
ジャニン・スタイン氏
(Janine Stein)

ものです。

サミットは、各国のコンテンツ業界関係者が多くのディスカッションに登壇し、ブランド方針や、膨

大なデータによる実績発表、急速に変化する市場動向などが語られます。参加者にとって実用的なヒントとなるよう、直接対話することで情報交換の質を高めることを目的としています。「ContentAsia」の広範な地域ネットワークを活用し、アジアのコンテンツビジネスの創造的なダイナミズム、つまり新



業界情報誌
「ContentAsia」

しい潮流や変化、躍進に焦点を当てた、参加者同士の質の高い「対話型の環境」を提供しています。

Q. ジャニーンさんは、全てのディスカッションにファシリテーターとして登壇し、それ以外の朝食、昼食ネットワーキング、休憩、会場移動の時間も、参加者同士を紹介し、つなぎ、会話し続けていました。そんなジャニーンさんが思い描くこのサミットの特徴を教えてください。

このサミットにおいて、重視しているのは「量より質」で、一般的な国際見本市の形式を意図的に避けているのも特徴です。従来型の国際見本市のような、

取引中心の慌ただしい時間ではなく、数多くのディスカッションやプレミア上映会、ランチミーティングなどの直接交流を通して、「知識」と「人脈」を軸に、分析・つながり・学びを深めることを優先しています。

結果的にこのサミットは、最新情報の共有と理解を深め、人脈を拡げ距離を縮め、協働を促進し、継続的な業界の成長を推進する、ユニークなプラットフォームとしてのアイデンティティを確立しています。



ネットワーキング ブレックファスト



ランチミーティング

TOPICS

上映会場で同時に視聴し、作品を理解することを重視

Q. 今年のテーマと選んだ理由を教えてください。

今年のテーマは主に3つの要素から構成されています。

1. アジアにおける国際共同制作とクリエイティブ・パートナーシップ

国際共同制作のチャンスと可能性を全ての参加者が感じ、実現につなげるためです。

2. マイクロドラマ

重要なのは、「マイクロドラマとは何か」を実際に「見せる」特徴的なショーケース、という点です。単に「何十億ドル規模の市場」や「爆発的な成長率」

を声高に強調するのではなく、実際の作品を、上映会場に集い同時に視聴し理解してもらうことを重視しました。

3. ContentAsia PREMIERES (コンテンツアジア・プレミア上映会)

アジア各国のテレビドラマシリーズ作品の第一話をフル上映し、その後に制作に関するディスカッションを行う企画です。世界最大級のテレビドラマシリーズに特化した国際フェスティバルは、毎年フランス・リールで開催される「Series Mania」が有名ですが、アジアでは、テレビドラマシリーズを映画

祭のような場で紹介する機会が大きく不足しています。アジアでは映像事業の多くが映画中心で、テレビは「格下」と見なされ、大画面で上映する価値がないと言われることもあります。私はこの認識を変えたいと思っており、その一環として、こちらにも上映会場に一同に会して視聴する「ContentAsia プレミア上映会」を実施しています。



ContentAsia PREMIERES(コンテンツアジア・プレミア上映会)

TOPICS

日本のコンテンツ業界に期待すること

Q.さまざまな国のコンテンツや情報を扱うジャーニソンさんは、日本のテレビ局や制作会社に対してどのような期待を持っていますか？

日本のコンテンツ制作力の高さは、今改めてアジア全体で注目されています。特にDisney+の『SHOGUN 将軍』以降、「日本は今もっとも“クール”な場所だ」という話題が多く聞かれます。このムードに乗って、日本の実写作品を適切に選別・発信し世界市場での地位を確保できれば、新たなチャンスを生む可能性があります。

日本企業との共同制作への関心は非常に高く、すでに多くの共同制作作品が生まれています。もちろん簡単なことではなく、制作スタイル・文化の違い

や課題の話も多く聞かれます。しかし日本とのパートナーシップがさらに注目されていることで、これまでは閉ざされていた扉が大きく開きつつあると感じています。



BEAJ取材チームも積極的にネットワーキング

TOPICS

パートナーシップ型・明確なターゲットの国際共同制作を

Q.最後に、今後のコンテンツ海外展開について、アドバイスをお願いします。

従来型の単純な完成番組の買い付けから、より早期の段階で国際的な配給会社やプラットフォームがコンセプトや脚本へ関与するパートナーシップ型へと、徐々に移行しています。

これはヨーロッパの一部では長く標準的な手法でした。これにより制作プロセスは複雑になりますが、後の販売成約や販路拡大の可能性を大きく高めることができます。

コンテンツの国際展開において単に完成番組を販売するのではなく、脚本シリーズ、フォーマット、リ

メイク権、スピンオフなどをセットにした“IPバンドル”として国際展開企画をパッケージ化することが、今後の理想的な国際展開と思われます。

また、「海外視聴者」向けに番組を制作するという動きについて、私は複雑な思いを抱いています。この言葉はしばしば曖昧で広義すぎて、実際の視聴者は誰でどこへ届けたいのか明確でなければ、最初から戦略が破綻してしまう可能性が高いのです。これは業界全体の課題とも言えます。世界には「ストーリーミング向けに作られた」けれど、ストリーマーに拾われず居場所を失ったシリーズが溢れているのです。

TOPICS

ContentAsia Awards(コンテンツ アジア アワード)

2020年から始まった、アジアの優れた作品を審査し表彰する授賞式のイベント。今年はアジア各国から510作品以上の応募があり、28部門で150作品以上が

ノミネートされ、そこから最優秀作品として日本を含む12カ国の作品が受賞しました。

以下に日本の放送局の金賞受賞を記します。

○日本テレビ

◆『ホットスポット』

「アジアで制作された最優秀連続ドラマ監督」部門 日本テレビ・水野格監督 金賞

◆『ANTS～ぜんぶ運べば一獲千金～』

「アジアで制作された最優秀オリジナルゲームショー」部門 金賞

○ABCテレビ

◆韓国・シンガポールと共同制作

『Miracle100(ミラクル ワンハンドレッド)』

「アジアで制作された最優秀バラエティ番組」部門 金賞

「アジアで制作された最優秀娯楽ノンフィクション番組」部門 金賞

(ContentAsia Awards史上初の1作品金賞W受賞)

○TBSテレビ

◆『Lovers or Liars?～本物の夫婦はどれ?～』

「アジアで制作された最優秀オリジナルリアリティ番組」部門 金賞

また、BEAJ事務局長補佐 杉山真喜人さんは、このアワードに審査員として参加されました。ノミネートされた全ての作品を事前に視聴し、審査。さらに「ベストバラエティー」部門のプレゼンターとして、ご登壇さ

れました。多くの関係者・受賞者とのコミュニケーションは、ジャニーさんへのねらい通り、まさに直接対話型。人脈を上げ、距離を縮め、お互いの可能性を引き出しあう様に、私も大きな刺激を受けました。



「最優秀バラエティ番組」部門
金賞 ABCテレビ



「アジアで制作された最優秀連続ドラマ監督」部門
金賞 日本テレビ・水野格監督



審査員・プレゼンター
BEAJ事務局長補佐 杉山真喜人氏

以上、2日間の研修取材を通して、アジアのコンテンツ産業の広がりや深まりは様々で、日本の放送局が参画する意味や可能性も大きい、と実感しました。一方で、ローカル放送局にとっては、単体で海外展開に挑むことは依然難しく、これまでの総務省事業のよう

な枠組みやBEAJの支援を得て、広げていく必要があると感じました。

今後も日本のローカル局としての可能性を、今回学んだ「直接対話型」で探っていきたいと思います。

「ContentAsia Summit 2025」への初参加で得た知見やネットワークを最大活用し、ローカル局の特徴を生かした国際共同制作やマイクロドラマ、さらに自社番組の「ContentAsia Awards」への挑戦にもつながっていききたいと思います。(2025年9月取材)

報告者: 新家 まゆみ
南海放送株式会社
営業編成本部



*本稿に掲載した記事及び写真の無断転載はご遠慮ください。